

8. 外付け電子膨張弁 (PAC-SF39LE)

8-1. 部品確認

この箱の中には、この説明書の他に下記部品が入っていますので、ご確認ください。

品名	①外付け電子膨張弁	②異径継手配管	③パイプカバー	④バンド	⑤ファスナ
個数	1	2	2	6	2
形状					

- ご注意
- 取付け可能機種はJ22～J71形です。(壁掛形以外の室内ユニットにも使用可能です)
 - 室内ユニットの電源を入れる前に、必ず別売外付け電子膨張弁の取付工事を完了させてください。
- ※万一、この作業手順を間違えた場合は、正常な運転ができなくなります。

8-2. 取付手順

外付け電子膨張弁本体は液管に取付け天井内に設置してください。(屋外へは設置しないでください。故障の原因となります。) 天井へは、必ず点検口を設けてください。

(1) 取付場所の選定

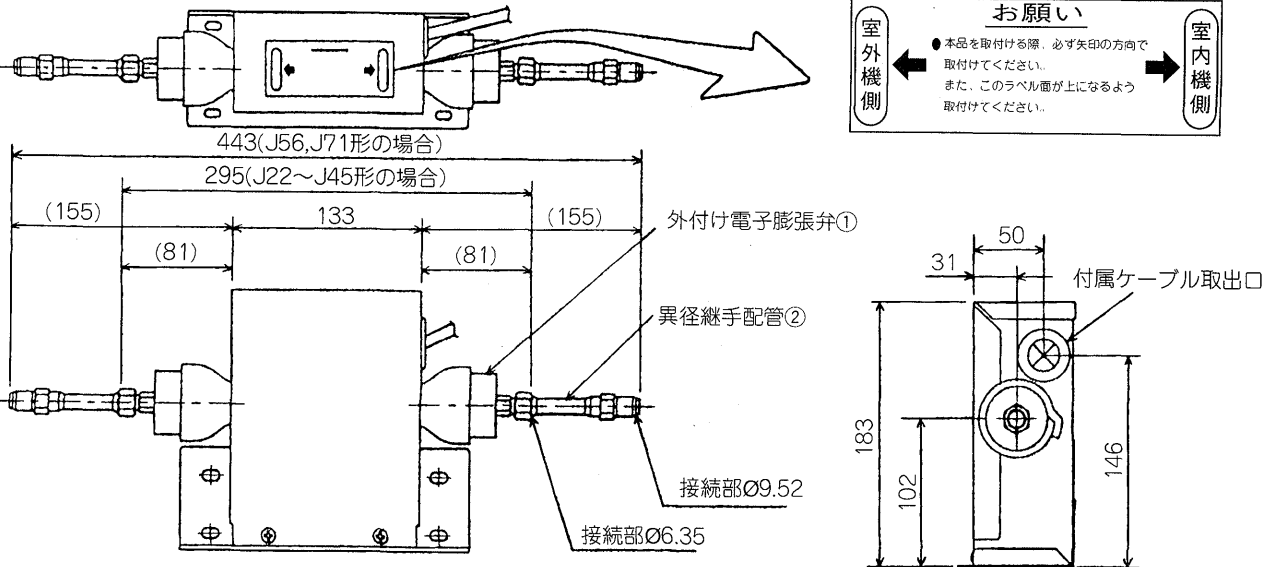
取付方法については、次頁のパターンから選択可能です。それぞれの場合の位置関係で外形図を参照し、取付位置を決定してください。

なお、室内ユニット本体から外付け電子膨張弁本体までの距離は5m以内(配管長5m、付属ケーブル5.3m)を目安にしてください。

■外付け電子膨張弁外形図 (工場出荷時の状態を示す)

単位 (mm)

※現地冷媒配管接続時、このラベルを参照し向きに注意してください。
また、このラベル貼付面を必ず上向きにし取付けしてください。



オプション品（室内ユニット）

a) 取付方法パターンA（吊りボルト方式、推奨パターン）

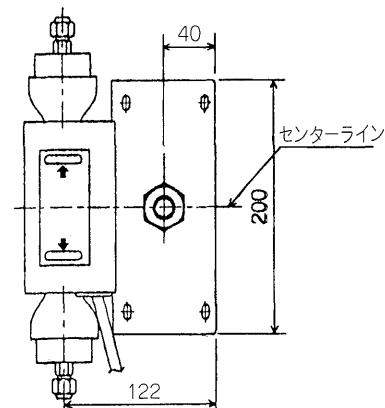
単位（mm）

1) 吊りボルト（現地手配、W3/8またはM10）を設置する。設置位置は下図を参照し決めてください。

また、吊り下げ構造については下記のように強固な構造にします。

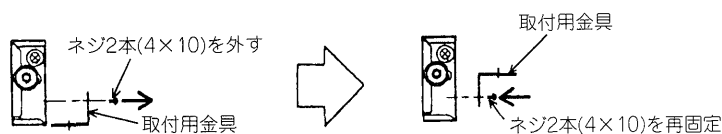
- 【木造・簡易鉄筋の場合】
- 小屋梁（はり・平屋建て）または2階梁（2階建て）を強度メンバーとしてください。
 - ユニット吊り下げには丈夫な角材を用いてください。
梁間が90cm以下の場合＝6cm角以上の角材
梁間が180cm以下の場合＝6cm角以上の角材

- 【鉄筋の場合】
- 下図の方法で吊ボルトを固定するか、またはアングル・角材などを利用して吊ボルトを取付けます。
- インサートなど
100～150kg/1本
- 吊ボルト
W3/8またはM10 現地手配

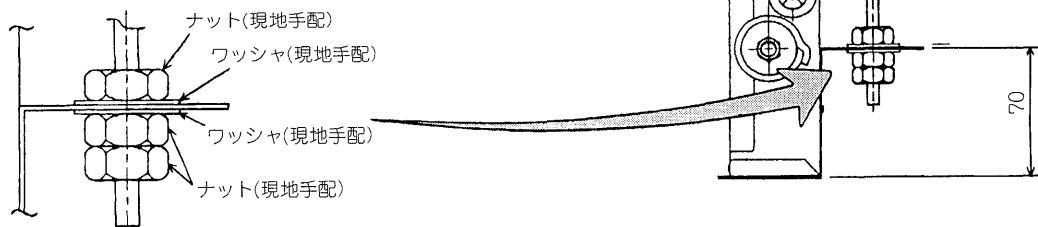


2) 外付け電子膨張弁本体①の取付け用金具を下図のように付け換えます。

（取付用金具を先に吊りボルトに固定する方法でも可）



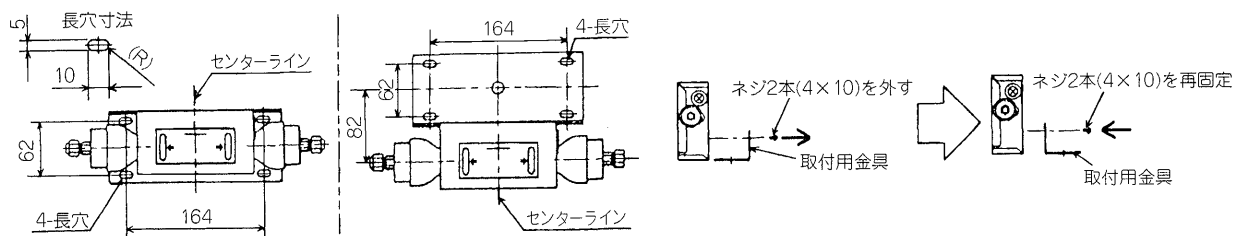
3) 外付け電子膨張弁本体①を吊りボルトにセットし各ナットとワッシャを締付けます。



b) 取付方法パターンB（天井内平面取付方式）

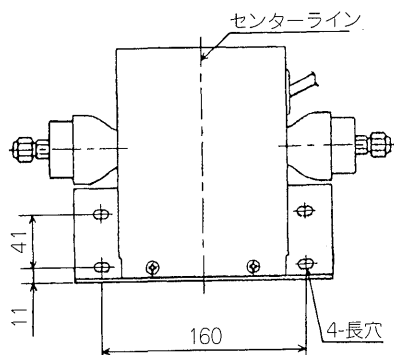
下図のように、外付け電子膨張弁①の取付金具を付け換えることにより

2パターンを取付けができます。取付金具の長穴4箇所にてネジ（現地手配）固定する。



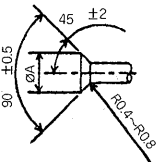
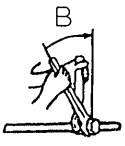
c) 取付方法パターンC（天井内垂直面取付方式）

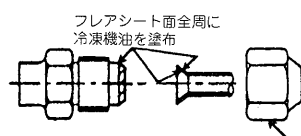
下図のように、取付金具の長穴4箇所にてネジ（現地手配）固定する。



(2) 配管接続作業

- 1) 取付場所決定後、液管をフレア加工し、フレアシート面に冷凍機油DH HP-5S（現地手配）を塗布してください。
- 2) 現地冷媒配管を接続してください。

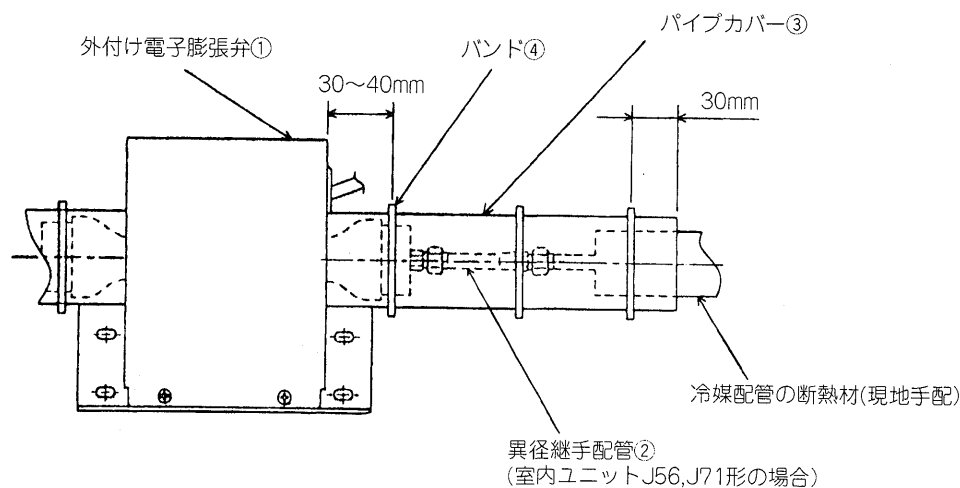
銅管外径 (mm)	フレア寸法 φ A寸法 (mm)		締付力 N・m (kgf・cm)	締付角度 B (目安)	
φ 6.35	8.3~8.7		14~18 (140~180)	60°~90°	
φ 9.52	12.0~12.4		35~42 (350~420)	60°~90°	



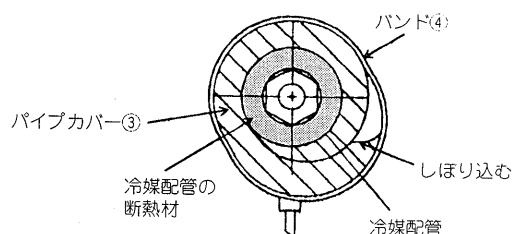
※フレアナットは、必ず外付け電子膨張弁本体①に取付けられているものを使用してください。

※トルクレンチが無い場合、上記方法を目安にします。
フレアナットをスパナで締付けていき、急に締付けトルクが増したとき、一旦止めてそこから更に上表の角度を目安に締付けます。

- 3) 液管接続部を付属のパイプカバー③にて外付け電子膨張弁①外面に押し当てて巻いてください。
- 4) 付属のバンド④にて、パイプカバー③を下図のように固定し、確実に断熱してください。



■接続部断面



オプション品（室内ユニット）

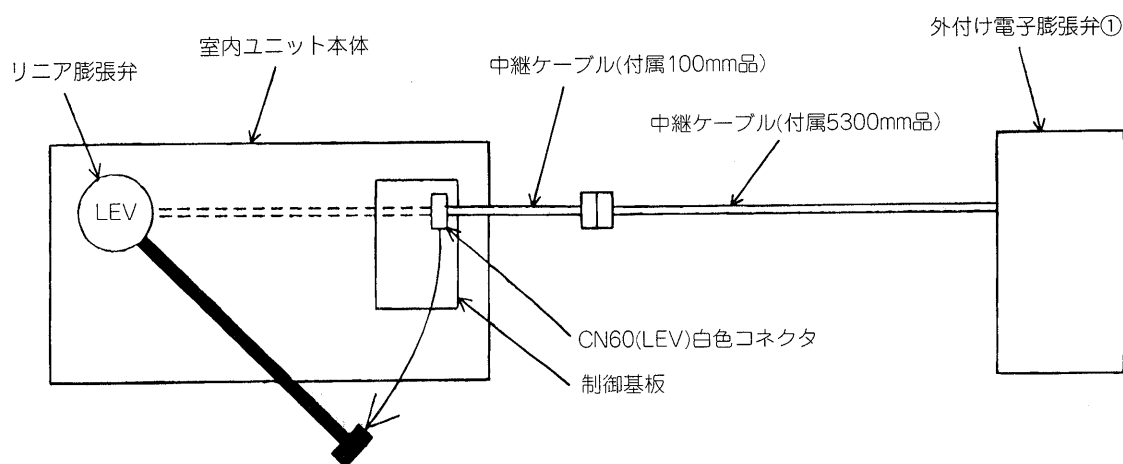
8-3. 配線手順

室内ユニットにより、配線作業方法が異なりますので下図を参照し配線作業をしてください。

また、各室内ユニットの中継ケーブルの接続作業時の電気品カバー等の取外し方法については、各室内ユニット付属の据付工事説明書を参照してください。各室内ユニット内の中継ケーブルの取り廻しは現地配線の電源線・伝送線・リモコン線と同様の取り廻しをし、ファスナ⑤にて結束してください。

(1) 室内ユニット壁掛形(K-A)、天井ビルトイン形(B-A)、天井埋込形(D-A)、床置形(FL-A)の場合
※必ず室内ユニットの電源を入れる前に、下記の作業を完了してください。

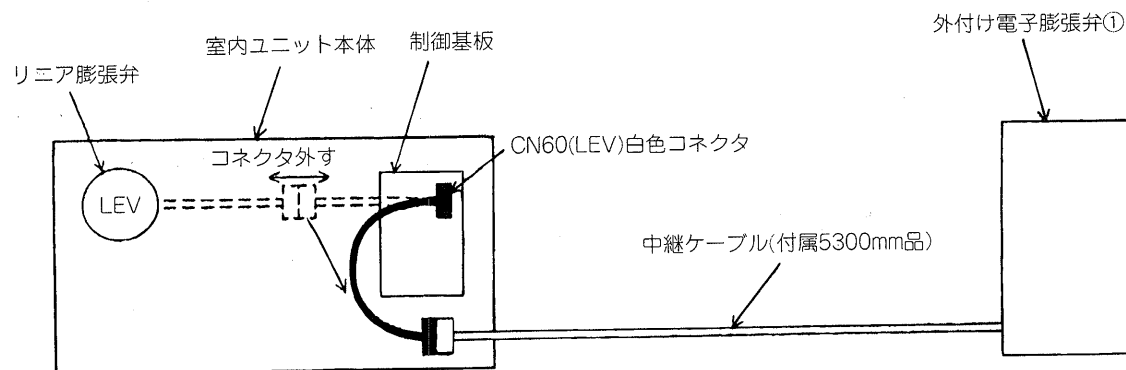
室内ユニット本体の制御基板のCN60コネクタには、工場出荷時、室内ユニット本体内部蔵のリニア膨張弁のコネクタが接続されてますので外付け電子膨張弁①の中継ケーブル（付属100mm品）の白色コネクタと差し換えてください。取外したリニア膨張弁のリード線は、ファスナ⑤にてまとめ、電気品箱に収納してください。



(2) 室内ユニット天井カセット形(GK-A、EK-A)、天吊形(T-B)の場合

※必ず室内ユニットの電源を入れる前に、下記の作業を完了してください。

室内ユニット本体の制御基板から出ている中継リード線には、工場出荷時、室内ユニット本体内部蔵のリニア膨張弁のコネクタが接続されてますので外付け電子膨張弁①の中継ケーブル（付属5300mm品）の白色コネクタと差し換えてください。取外したリニア膨張弁のリード線は、ファスナ⑤にてまとめ、電気品箱に収納してください。
※中継ケーブル（付属100mm品）は、不要になりますので取外してください。



8-4. 試運転

室内ユニットおよび室外ユニット付属の据付工事説明書を参照し、試運転を実施してください。